



その他

## 《評価指標データ》

博士研究員（PD）の受入状況  
 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数  
 研究誌発行状況  
 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）  
 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】  
 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】  
 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文数  
 21世紀COEプログラムの採択状況  
 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】  
 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】  
 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】  
 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

★ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

|           |  |
|-----------|--|
| 小項目4.0.1  | 2011年4月現在の産業研究所3共同研究プロジェクトの代表者のうち、2人は国際学部、総合政策学部の所属教員であり、従来の経済学部、商学部中心の運営から変貌しつつある。テーマもそれぞれ学際研究にふさわしいものとなっている。共同研究のメンバーに、学内の若手研究員や学外研究員が加わるようになっている。（意見交換後、下線部挿入）  |
| ★小項目4.0.2 | 共同研究の一環として、アジアやロシアの経済動向に関する公開型研究会、アジアへの国際援助事業をテーマにした公開型講演会を開催して、研究活動の国際性を高めている。学外団体からの援助を受けて、原子力事業の海外支援についての東京講演会を3月11日に開催したが、講演会途中で東日本大震災に遭遇し、中止せざるをえなくなったのは残念である。（意見交換後、下線部挿入）共同研究のメンバーに、学内の若手研究員や学外研究員が加わるようになっている。（意見交換後、削除） |
| その他       | 従来、必ずしも明確でなかったEUIJ関西事業と日中経済シンポジウム事業と産業研究所長の関係について、両事業を共同研究の特別事業として位置づけ、研究費の運用を柔軟にできるようにした。   |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

|           |  |
|-----------|--|
| 小項目4.0.1  | 大事なのはテーマ選択であり、テーマにふさわしいプロジェクトの陣容や代表者が必要であり、学部の垣根を取り去った学内横断型の研究を目指す。学外研究員を積極的に加えることによって、研究活動への刺戟やバランスのとれた視点を取り入れられる。（意見交換後、下線部挿入）                                   |
| ★小項目4.0.2 | シンポジウム、講演会、出版などでの学外資金の獲得が、同時に研究活動の質を高めるバネになる。共催での便宜供与を含めて、学外団体との一層の協力関係の構築は必要である。会議記録(Proceedings)の作成は、成果報告の意味だけでなく、主催団体の信用度も高めるものであり、可能な限りまとめるようにする。（意見交換後、下線部挿入） |
| その他       | 産業研究所の共同研究として、テーマや活動に独自性を高める必要がある。   |

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

|           |   |
|-----------|---|
| 小項目4.0.1  | 『産研叢書』（共同研究成果報告）の一部の研究員の原稿提出が遅れ、出版予定が会計年度ぎりぎりに遅れる事例が目立っている。先に提出した論文の鮮度が落ち、内容のクォリティーにも関わる問題になる。研究員の所属が多様になり、統率がとりにくいことも原因している。 |
| ★小項目4.0.2 |   |
| その他       |   |

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

|           |  |
|-----------|--|
| 小項目4.0.1  | 共同研究の成果報告（論文）の遅れた者は、『産研叢書』でなく、次の『産研論集』に原稿を掲載させる。 |
| ★小項目4.0.2 |  |
| その他       |  |

## ◎自由記述

【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

|                |   |
|----------------|---|
| ★その他<br>(自由記述) | 研究成果物を定期的に出版することが、研究所としての信頼につながる。次の評価として、研究成果物のクォリティーのことがある。学外の客員研究員の分担執筆を増やすことは、学内研究員にも大きな刺戟になりうる。 |
|----------------|---|

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### <評価専門委員会の評価>

○全般的に、記述内容が、やや具体的な活動内容に偏っています。この項目では、「組織そのものの適切性とその検証」という、大きな視点からの評価について記述してください。

○丁寧に、具体的に記述されていますし、0. 理念・目的でコメントしたように、研究活動は本項目で記述することは適切です。しかし、本来本項目で聞いている大きな視点から組織の適切性についての記述が求められます。「理念・目的の適切性」と「研究活動」の二つを明記し、それぞれ記述されればどうでしょう。

○小項目4.0.1は、大学の理念・目的に照らして適切であるかどうかを聞いていると考えられます。その上で、組織の編成原理、学術の進展や社会の要請との適切性について記述していくことを考えてみてください。

○昨年度改善すべき事項であっていた、事務局の問題は解決されましたが、授業期間中の運営委員会の定足数は解決されたのでしょうか。これを記述することでPDCAが回っているか検証できます。

○叢書の問題は本年度も記述があり解決していないようですが、早期の解決が期待されます。

○方策は出来るだけ具体的なものである必要があります。また、「目指す」は好ましい表現とは言えません。

○目標の進捗評価がすべてAで確実な活動をされていることが伺えますが、単年度の目標が多く、中期的な目標を設定されることをお考えください。昨年度のコメントにも同じような指摘があります。

○どのようなプロジェクトを計画されるかが大切だと思います。また、教員が参加していることは、大学として非常に大事なことで評価できます。

#### 【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1  
基盤評価：なし  
達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2  
基盤評価：なし  
達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。」

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし